

2007年10月31日
財団法人日本産業デザイン振興会

グッドデザイン賞の受賞情報にクリエイティブ・コモンズを導入 受賞者の62%の賛同を得て、2007年度の受賞結果から実施

総合デザインプロモーション機関の財団法人日本産業デザイン振興会(東京都港区 会長:山口信夫)は、この10月に行なった2007年度グッドデザイン賞の受賞結果発表に合わせて、ウェブサイトで公開する受賞情報データベース「グッドデザイン・ファインダー」において、クリエイティブ・コモンズ(CC)を導入しました。従来から取り組んで来たイベント開催や受賞作の展示、出版事業などと合わせて、グッドデザイン賞を核とするデザイン情報の発信といっそうの活用に向けた活動の一環となるものです。

CCは、現在の著作権法を前提とし柔軟な利用条件を事前に提示する仕組みで、現在日本を含む38カ国で各国法に準拠しローカライズ化され、日本では「クリエイティブ・コモンズ・ジャパン」が事務局となり普及活動を行っているものです。

グッドデザイン賞の受賞情報は受賞企業および審査委員から提出された情報ですが、デザイン教育の現場などのデザイン界、そして広く一般社会においてもデザインの振興に有意義に活用してもらうため受賞者の承諾を得たものに限ってCCを導入します。現段階で承諾を得たのは今年度全受賞対象の62%にのぼり、予想を大きく上回る結果となっています。また当会のような公的な機関がCCを導入するケースは国内では過去にありません。

グッドデザイン賞受賞情報では、CCライセンスの中で「表示」「改変禁止」の2つの条件で実施し、受賞情報が多方面で有意義に活用されることで、受賞者のPRにつながるものと考えています。

クリエイティブ・コモンズ会長の伊藤穰一氏は、グッドデザイン賞でのCC導入に関し以下のエンドースメントを寄せています。

クリエイティブ・コモンズは、インターネット上での「リミックス・カルチャー」の鍵になる要素です。グッドデザイン賞の受賞情報のように広く流通すべき情報がクリエイティブ・コモンズライセンスを採用することによって社会に大きく貢献できることに期待します。

●グッドデザイン・ファインダー(www.g-mark.org/search/)

グッドデザイン賞の受賞情報データベースで、過去51年分約32,000件の全受賞情報が検索可能。

●クリエイティブ・コモンズ

スタンフォード大学ロー・スクールのローレンス・レッシング教授らに中心となって運営されているプロジェクト。完全な著作権保持と完全な著作権放棄の間の中間層を埋める役割を果たすもので、コンテンツに対して著作権を保持しながら一定の自由を事前に許諾していることを、分かりやすく表示することでより自由な著作権ルールを実現し、より豊かな情報流通と文化・科学技術の発展をサポートするもの。海外ではCCを利用するケースが多数あるが、有名なものは以下のプロジェクト。

- ・マサチューセッツ工科大学(MIT)のオープンコースウェア
- ・米国の自然科学論文誌Public Library of Science
- ・flickr(写真のアーカイブサイト)



2007年度グッドデザイン賞の受賞情報で導入したCCライセンスマーク

●クリエイティブ・コモンズ・ジャパン(www.creativecommons.jp)

日本においてクリエイティブ・コモンズ・ライセンスの普及・実践を行うために活動する組織。2004年3月から国際大学グローバル・コミュニケーション・センター(GLOCOM、現在の理事長は小林陽太郎)をホストとしてCCの日本語訳を行い、2006年3月には独立した事務局を発足。2007年7月に東京都の認可を受けNPO法人となる。現在の理事長は、東京大学法学部法政治学政治学研究所 中山信弘教授。

本件に関するお問い合わせ先:
2007年度グッドデザイン賞PR事務局 担当:大瀧美穂、安井眞維
(株式会社スパイスコミュニケーションズ)
電話 03-6230-0519 Fax:03-6230-0524